



# 伊達が小咄

The Date museum presents Date na kobanashi...



有職雛 女雛  
所蔵：伊達博物館

## ■資料が伝える伊達家のひなまつり

伊達家では、宇和島と江戸のお屋敷にそれぞれ藩主の夫人や子供たちが暮らしており、おひな様のお祝いが催されていました。

宇和島の年中行事の記録によると、菱餅や桃の花のお銚子（冷

酒）が用意されました。菱餅は今のようには5色ではなく、草餅と白餅の2色でした。

お祝当日の食事は朝夕共に、二汁六菜（汁物2品におかずが6品）でした。当時の普段の食事はだいたい一汁三菜（汁物1品におかずが3品）が基本ですから、普段の倍の量ということで、ご馳走だったようです。

そしてお祝いとして、重箱に料理が用意され、酒の肴や藩主の身内から鯛の干物が振る舞われたことが記されます。

一方、江戸藩邸でのひな祭りの様子は宇和島よりも詳しく記されていて、「御雛御饗応」として2月28日から3月5日までの約1週間

## だてさんちのひなまつり

がオカザキヒトミ



にわたり催されていました。

まず2月28日にはおひな様にお供えする「ひなのし」というお供飾（10膳）と豆や餅、お米の「煎物」が用意されました。ここで登場する「煎物」とは現在のひなあられの原型のようです。

食事は、2月28日から3月2日までは普段通りの一汁三菜で、29日からは食後にお菓子も用意され、饅頭やようかんなどの蒸したお菓子が用意されました。

3月3日のお節句当日は、宇和島と同じく二汁六菜のご馳走に、酒、酒の肴、桃の花のお銚子、甘酒、お茶うけ菓子として餅菓子が梅竹の描かれる華やかな重箱に用意されました。またこの日は、江戸藩邸に勤める家臣たちや藩主や夫人に仕える奥女中たちにもそれぞれに食事が振る舞われ、宴会が催されたようです。



「五節供之飾」より3月3日のお供飾  
所蔵：公益財団法人宇和島伊達文化保存会

そして、最終日になる3月5日のおひな様をしまう日には、蕎麦が用意されていました。おひな様を片付けることは移動（＝引っ越し）させることであるため、蕎麦を供える風習があるようで、雛蕎麦ともいわれています。

伊達博物館では、旧暦の3月5日にあたる4月初旬まで「ひな人形とひな調度展」を開催しています。皆さんのお越しを心よりお待ちしております。

【問合先】 伊達博物館 ☎22-7776

展示期間：「ひな人形とひな調度展」 4月6日(日)まで

開館時間：午前9時～午後5時（受付は午後4時30分まで）

休館日：月曜日・1月1日(水)～3日(金)

入館料：大人 500円 / 高校・大学生 400円 / 小・中学生 無料